

水越峠(大和と河内の水争い)

水越川の開拓者「上田角之進」と大和の水を守った「高橋佐助」
今、金剛山の山頂が奈良県御所市である理由もここにあります。

第一章 16世紀前半 慶長・元和時代 水越川の開拓者「上田角之進」

大和吐田郷(はんだごう)関屋(現在御所市)の農民は永年水利が悪く灌漑に苦しんでいた。

森平之進は水不足に悩む農民を救うため、河内に流れる金剛山の水を大和に分水し、農民を救済することを発願し水守神社(現、葛木水分神社)にこもった。川筋に砂利を埋める等の分水基礎工事をした。孫の夫、上田角之進に託された。

上田角之進はこの志をついで、計画を練り、葛城山麓の万字ヶ滝、金剛山麓の古背口(越口)行者の滝の両水を大和に引く現地調査を実施。両溝筋に芦や水草を植え、古背口の山の尾根筋を切抜き
の工事をした。この時、村人から不審を抱いたので 埋もれている不動明王を掘り出すためと語り深意を語らず伏せていた。これがのちに言われる「雨乞不動」である。

苦勞の末、ついに、金剛の水は、古背口の切通しを突き破り大和に流れ落ちた。農民は大喜びをし、永年の悩みであった水不足が解消された。この時から金剛山は大和領としての礎を築いた。下地図に万字ヶ滝、古背口(行者の滝)を示す。



雨乞不動



大和への取水口

角之進の墓は、奈良県御所市名柄の「本久寺」にある。

角之進の報恩行事として毎年7月18日角之進が初めて水を流した日を記念して本久寺にて夏祭りが行われる。

本堂前には五輪の供養塔がある。

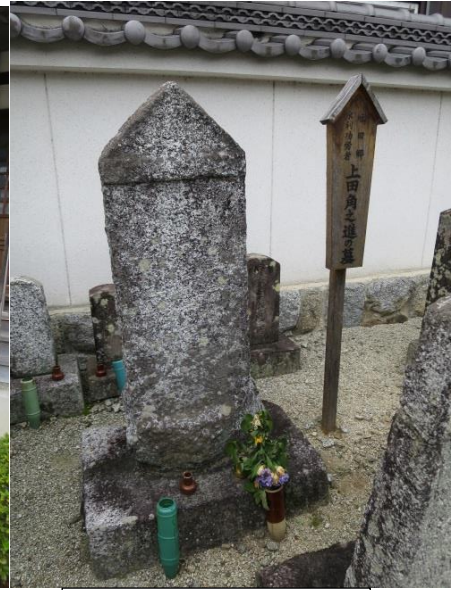
角之進の功勞碑が名柄小学校校庭にあります。(1931年昭和6年建立)



名柄小学校にある功勞碑



本久寺本堂前の角之進供養塔



本久寺の角之進の墓

第2章 元禄時代の水争い 高橋佐助他 水論に勝訴

元禄13年(1700)河内の農民により水の堰き止めを切られ水を河内に落とされた。名柄の庄屋高橋佐助が河内の村々に談判した。南都奉行に提訴し、大和側の申分が通って和解となった。元禄14年(1701)万字ヶ滝、古背口の両水を再び河内の農民が切り落とし、河内・大和の大激突となった。大和側は実力行使を避け、高橋佐助はじめ大和各村の応援を得、法廷で決することとし、事件は京都所司代に移され、大論争となった。日亭上人の助力により、現地へ検使派遣をし、現地検証が行われた。その結果、金剛山は大和領であり、水越峠の水は元禄の遙か以前より大和へ流れ落ちていた実績が証明され、元禄14年(1701)12月21日大和側の勝訴となり、山林の所有権も自然に大和側のものとなった。

第3章 明治の山論

明治の論争は、大阪府石川郡水分村字金剛水越の山林は昔から河内・大和共有山であった。明治6年地券発行地租改正条例の公布に際し、一村に地券の交付を受けた。これをもとに各村から異論が上がり、論争となり大阪裁判所で争われた。戸長末吉定次郎が陣頭に立ち、交渉に努めた。元禄の訴訟事件は主として水論境論であったが、明治時代には、山論と境論となっていたが、大和・河内の国境も所有権も確認され終止符が打たれた。

参考資料：「水越川の開拓者 上田角之進」野村恵澄著 発行；松尾恵行
「御所市史」御所市史編纂委員会著